

福島再生

REPORT

23

平成24年11月15日

毎週、福島の除染活動状況をお伝えします。

矢吹町

おいしい米を安心して食べてもらうために、
一致協力して水田を除染。



天候に恵まれ順調に育った今年の稲の刈り取り作業風景。



JA東西しらかわ管内で生産された米は、同JAブランド「みりよく満点」と「かがやき」の名前で販売されています。



「小さなお子さんからお年寄りまで、皆さんに安心して食べていただきたい」と米生産農家の本田英世さん。

矢吹町では米が主力な農産物です。町では除染計画で重点地域とした地区の水田の除染作業を、今年4月初旬から5月初旬にかけて行いました。町から委託された「JA東西しらかわ」は米農家に協力を呼びかけ、同JA青年部が中心となって除染作業を実施。表層土と下層土を入れ替える「反転耕」の際、放射性物質を吸着できるゼオライトとカリ肥料を散布し、約120haの水田の除染を田植え前に終了しました。

「役場と協議した当初は、5月の連休の田植え前に除染が終わるのかという声もありましたが、なんとか間に合わせる事ができました」と同JA経済総合渉外担当の角田初夫さん。同町産業振興課の柏村秀一さんは「JAさんと農家の方の協力がなければ、1ヵ月で除染することは難しかったと思います」と話します。

この10月、矢吹町で収穫された米は、これらの除染が行われた水田で作られた米をはじめ、放射性物質は基準値以下と、県による出荷前の全量全袋検査で安全性が確認されています。「非常に味もよく、安心して自信を持って奨められます」と生産農家の本田英世さん。矢吹町では、農地の除染に関して、畑を対象に今後重点地域の除染を予定しています。